

技術資料

E-Post LGWAN Option (x64)

補足ガイド

Rev.1.4

2022 年 3 月発行



株式会社イー・ポスト

技術資料

E-Post LGWAN option (x64) 機能補足ガイド

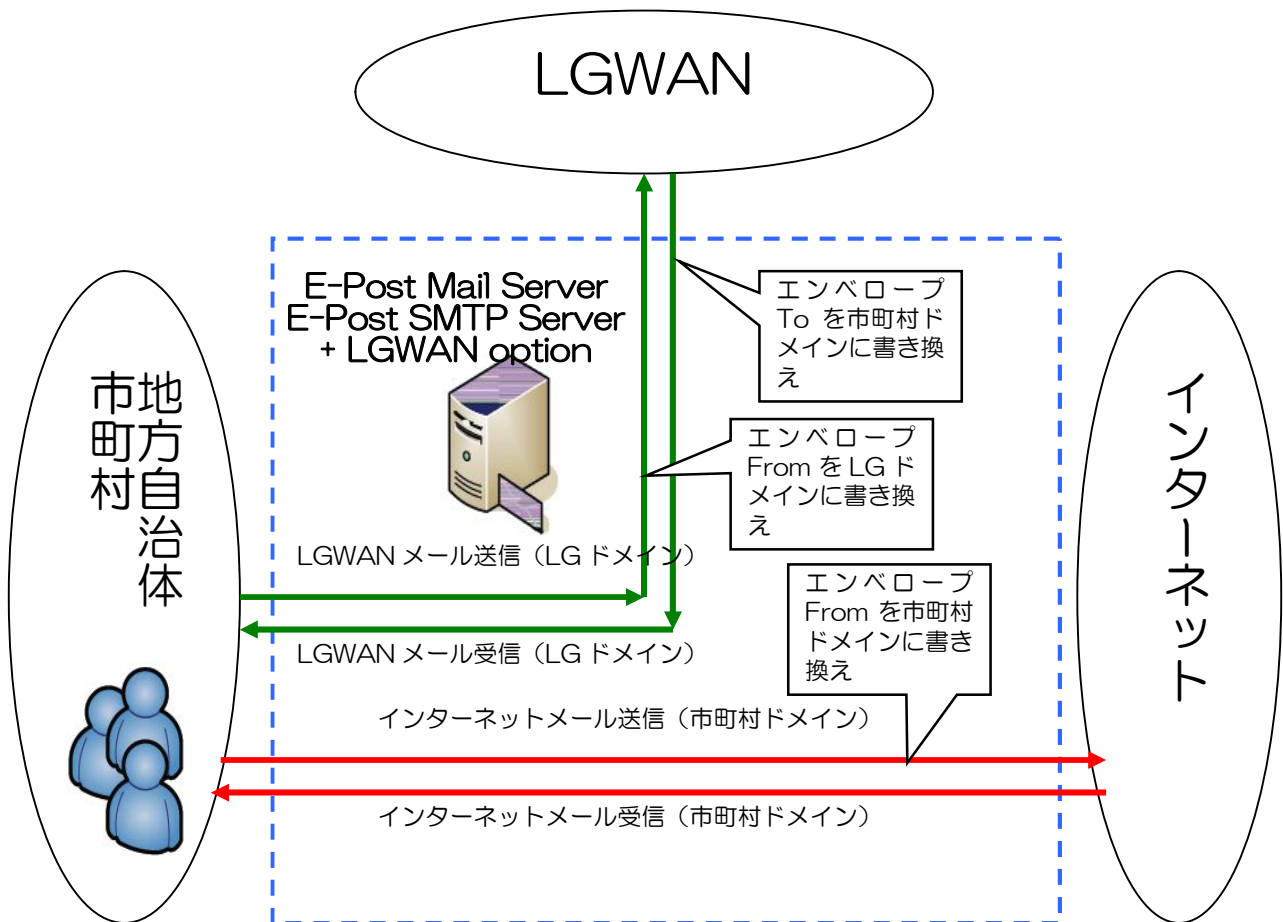
目 次

0. LGWAN option (x64) による LGWAN (エンベロープ置き換え) 機能の概要.....	5
1. LGWAN option (x64) で記述されているオプション値の説明について.....	5
2. 市町村ドメインを作成・運用するE-Post Mail Server (x64) + LGWAN option (x64) 設定例と送信テスト結果.....	8
メールヘッダのうち「Received:」ヘッダは編集が可能	11
作成ドメインは必ず共通メールボックス方式で	11
メールヘッダの書き換えが不要ならレジストリ値を変更	11
3. LGドメインを作成・運用するE-Post Mail Server (x64) + LGWAN option (x64) 設定例.....	12
4. E-Post Mail Server (x64) + LGWAN option (x64) 構成と E-Post SMTP Server (x64) + LGWAN option (x64) 構成との比較.....	13
LGWAN option (x64) を使って同報送信するときの注意.....	14
LGWAN option (x64) 有効時に同報送信するときに 送信経路に従ってエンベロープ FROM の書き換えを制御する構成について	14
5. E-Post SMTP Server (x64) + LGWAN option (x64) 構成の設定例.....	15
SMTP Server (x64) + LGWAN option (x64) 構成での設定上のポイント	16
6. E-Post SMTP Server (x64) + LGWAN option (x64) 構成での送信テスト結果.....	17

E-Post およびイー・ポストは、株式会社イー・ポストの日本における登録商標です。
Microsoft、Windows および Windows Server は、米国およびその他の国の Microsoft 社の登録商標または商標です。
その他の社名および製品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。
本マニュアルの無断複製および引用を禁じます。 ©イー・ポスト

E-Post LGWAN option (x64) 機能 補足ガイド

0. LGWAN option (x64) による LGWAN（エンベロープ置き換え）機能の概要



1. LGWAN option (x64)で記述されているオプション値の説明について

LGWAN option (x64)マニュアルでの説明のうち、次の記述がありますが、オプション値の働きと説明について少しくわしく補足します。

(マニュアルでの説明部分)

たとえば、内部ドメイン名が"city.aaa.tokyo.jp"であり LGWAN ネットワークの MTA が 192.168.1.12 となっている場合は、「エイリアス設定」画面で次の設定を行います。

エイリアス:"*@city.aaa.lg.jp"->実アドレス:"*@city.aaa.tokyo.jp,0,192.168.1.12"

エイリアス:"*@city.aaa.tokyo.jp"->実アドレス:"*@city.aaa.lg.jp,2,192.168.1.12"

以上の設定により、次ページの表にまとめた動作が行われ、エンベロープの送信元、送信先を自動的に書き換え、目的のネットワークにそれぞれ配送されます。

(補足説明)

LGWAN option (x64)機能をインストールした後のエイリアス設定と指定するオプションの意味は次の通りです。マニュアルで説明されている設定を事例にします。

エイリアス	->	実アドレス
*@city.aaa.lg.jp	->	*@city.aaa.tokyo.jp, 0, 192.168.1.12
*@city.aaa.tokyo.jp	->	*@city.aaa.lg.jp, 2, 192.168.1.12

実アドレス側の 2 番目のオプション：

値	働 き
0	かつ 3 番目のオプションに LGWAN ネットワーク MTA の IP アドレスが指定されている条件下で： 「エイリアス」項目で指定された送信先エンベロープ (エンベロープ TO) の場合、「実アドレス」項目で指定された内容に書き換える。そのとき同じメールの送信元エンベロープ (エンベロープ FROM) は書き換えない。 「エイリアス」項目で指定された送信元エンベロープ (エンベロープ FROM) の場合、「実アドレス」項目で指定された内容に書き換える。そのとき同じメールの送信先エンベロープ (エンベロープ TO) は書き換えない。
2	かつ 3 番目のオプションに LGWAN ネットワーク MTA の IP アドレスが指定されている条件下で： 「エイリアス」項目で指定された送信元エンベロープ (エンベロープ FROM) の場合、「実アドレス」項目で指定された内容に書き換える。そのとき同じメールの送信先エンベロープ (エンベロープ TO) は書き換えない。

※LGWAN option (x64)使用時には、値として”1”や”3”の設定をすることはありません。

以上の設定により、次のような書き換え動作が行われます。

●LGWAN ネットワークから送られてきたメール：

エンベロープ TO が”@city.aaa.lg.jp”を含む→エンベロープ TO が”@city.aaa.tokyo.jp”に書き換えられる

●内部から LGWAN ネットワークに送ったメール：

エンベロープ FROM が”@city.aaa.tokyo.jp”を含む→エンベロープ FROM が”@city.aaa.lg.jp”に書き換えられる

●内部から外部のインターネットに送ったメール：

エンベロープ FROM が”@city.aaa.lg.jp”を含む→エンベロープ FROM が”@city.aaa.tokyo.jp”に書き換えられる

実アドレス側の 3 番目のオプション：

LGWAN option (x64)導入時の場合のみ有効なオプションです。

LGWAN ネットワークの MTA または SMTP ゲートウェイの IP アドレスを明示的に指定することにより、エンベロープを書き換えるときの接続元・接続先を限定します。

万が一、エンベロープを詐称されて別の MTA から接続されたときに、書き換え機能が働いてしまうことを防止することが目的です。

(マニュアルでの表の説明部分について)

LGWAN ネットワークから送信されてきたメール			
LGWAN		本サーバー内で書換えられる情報	
エンベロープの送信元	エンベロープの送信先	エンベロープの送信元	エンベロープの送信先
bbb@city.bbb.lg.jp	aaa@city.aaa.lg.jp	書換えしない	aaa@city.aaa.tokyo.jp

メールクライアント(内部ネットワークやインターネット)から送信されたメール			
メールクライアント等		本サーバー内で書換えられる情報	
エンベロープの送信元	エンベロープの送信先	エンベロープの送信元	エンベロープの送信先
aaa@city.aaa.lg.jp	bbb@city.bbb.lg.jp	書換えしない	書換えしない
aaa@city.aaa.lg.jp	ccc@domain.co.jp	aaa@city.aaa.tokyo.jp	書換えしない
aaa@city.aaa.tokyo.jp	bbb@city.bbb.lg.jp	aaa@city.aaa.lg.jp	書換えしない
aaa@city.aaa.tokyo.jp	ccc@domain.co.jp	書換えしない	書換えしない
aaa@city.aaa.lg.jp	bbb@city.aaa.lg.jp	aaa@city.aaa.tokyo.jp	bbb@city.aaa.tokyo.jp

オプション “0”により
エンベロープ TO を書き換え

書き換えしない

オプション “0”により
エンベロープ FROM を書き換え

オプション “2”により
エンベロープ FROM を書き換え

書き換えしない

オプション “0”により
エンベロープ TO を書き換え
合わせてオプション “2”により
エンベロープ FROM を書き換え

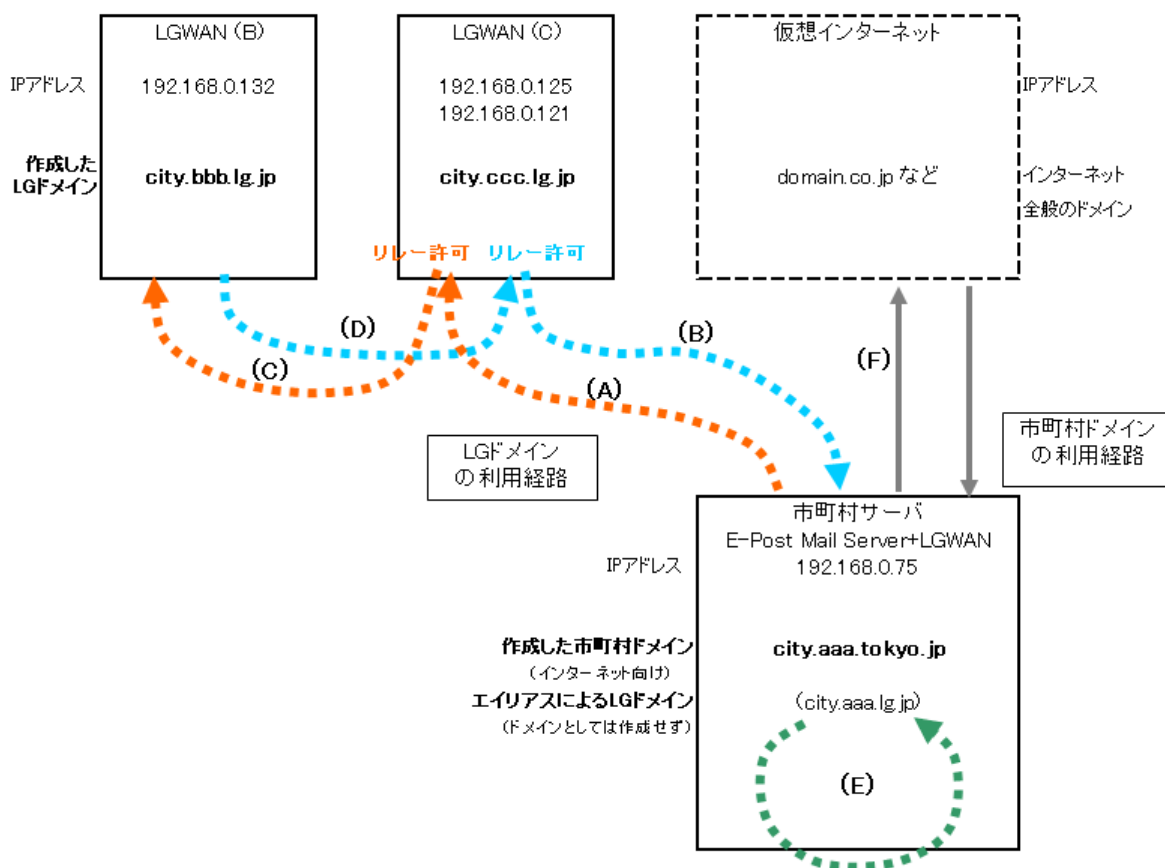
2. 市町村ドメインを作成・運用する E-Post Mail Server (x64) + LGWAN option (x64)設定例と送信テスト結果

LGWAN option (x64)設定例に近い環境を LAN 内に擬似的に作り、検証テストを行った結果です。

E-Post Mail Server (x64)+LGWAN option (x64) で構成し、**E-Post には市町村ドメインを作成・運用**します。作成するドメイン"city.aaa.tokyo.jp"は「**共通ボックス (区別しない)**」方式で**設定**してください。書き換え対象は、LGWAN へのアウトバウンドメールのエンベロープ FROM、LGWAN からのインバウンドメールのエンベロープ TO です。

メールヘッダの From:や To:は、エンベロープ FROM およびエンベロープ TO とは異なりますが、デフォルト設定では、LGWAN option (x64)機能によるエンベロープ書き換え時に、メールヘッダの該当する同じ From:や To:の部分も書き換わるので、メールボックスに着信したメールデータを確認し、エビデンスとして書き換わったメールヘッダを参考までに載せました。

LGWAN検証環境



市町村サーバ E-Post Mail Server (x64) + LGWAN option (x64) の設定

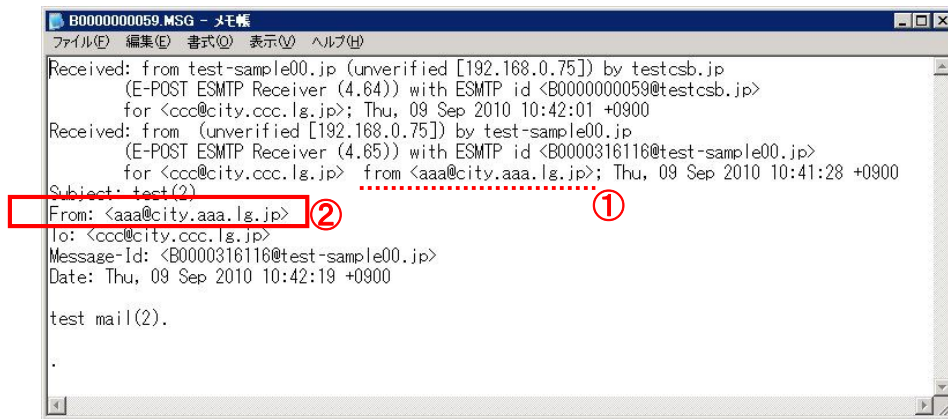
エイリアス → 実アドレス

*@city.aaa.lg.jp	*@city.aaa.tokyo.jp,0,192.168.0.12*
*@city.aaa.tokyo.jp	*@city.aaa.lg.jp,2,192.168.0.12*

テーブル編集(gateway.dat)

*.ccc.lg.jp,192.168.0.125,25
*.bbb.lg.jp,192.168.0.125,25

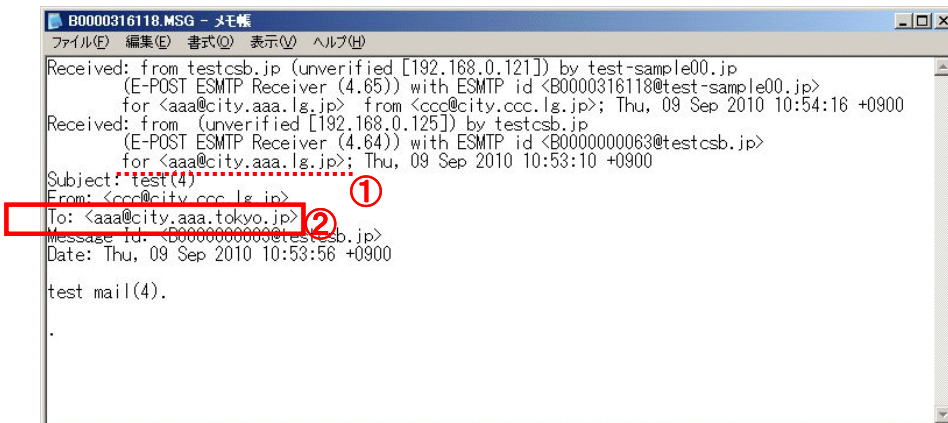
(A) 市町村サーバ city.aaa.tokyo.jp から LGWAN(C) city.ccc.lg.jp へ送ったメールヘッダ



①メールクライアントから受領時の FROM、エンベロープ FROM は<aaa@city.aaa.tokyo.jp>

②市町村サーバ（E-Post）送信時のエンベロープ FROM およびメールヘッダの From:を
<aaa@city.aaa.lg.jp>に書き換えてメールを送信

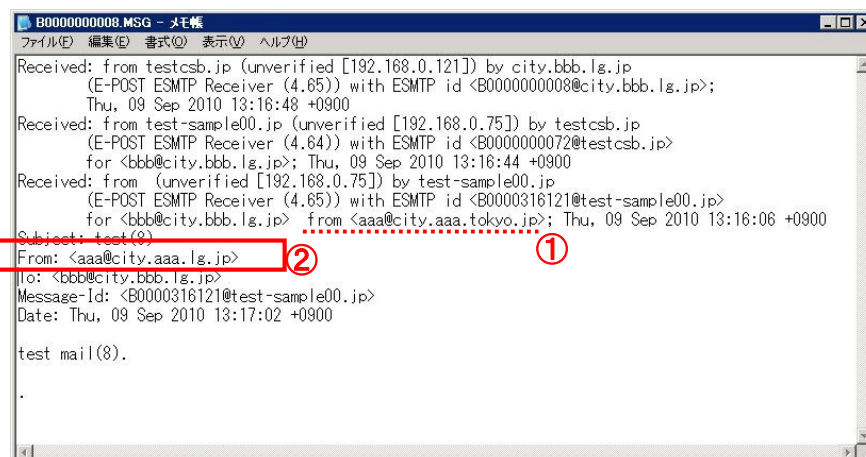
(B) LGWAN(C) city.ccc.lg.jp から市町村サーバ city.aaa.tokyo.jp へ送ったメールヘッダ



①LGWAN(C)から送信時のエンベロープ TO は <aaa@city.aaa.lg.jp>

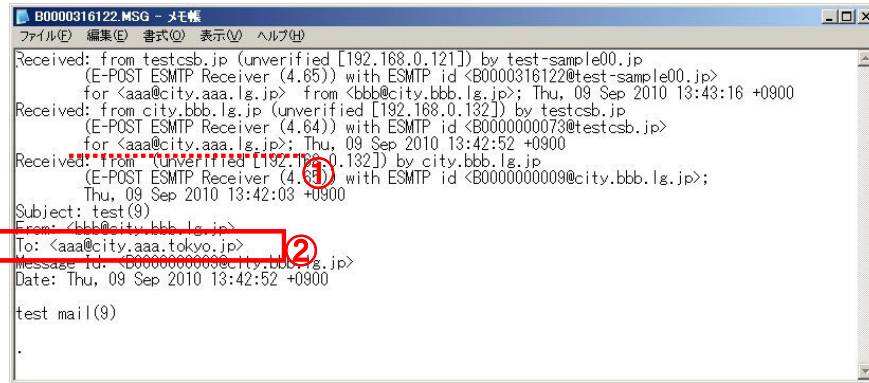
②市町村サーバ（E-Post）受信時にエンベロープ TO およびメールヘッダの To:を
<aaa@city.aaa.tokyo.jp>に書き換えてメールが着信

(C) 市町村サーバ city.aaa.tokyo.jp から、LGWAN(C)経由で LGWAN(B) city.bbb.lg.jp へ送ったメールヘッダ



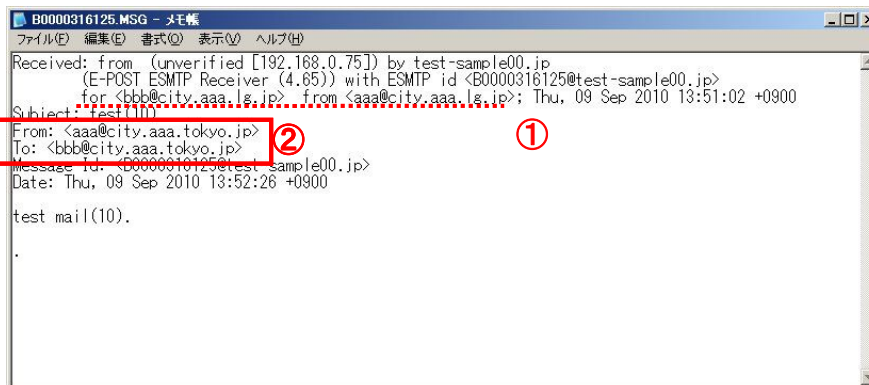
- ①メールクライアントから受領時の From:とエンベロップ FROM は<aaa@city.aaa.tokyo.jp>
- ②市町村サーバ（E-Post）送信時のエンベロップ FROM およびメールヘッダの From:を<aaa@city.aaa.lg.jp>に書き換えてメールを送信

(D) LGWAN(B) city.bbb.lg.jp から、LGWAN(C)経由で市町村サーバ city.aaa.tokyo.jp へ送ったメールヘッダ



- ①LGWAN(B)から送信時のエンベロップ TO は <aaa@city.aaa.lg.jp>
- ②市町村サーバ（E-Post）受信時にエンベロップ TO およびメールヘッダの To:を<aaa@city.aaa.tokyo.jp>に書き換えてメールが着信

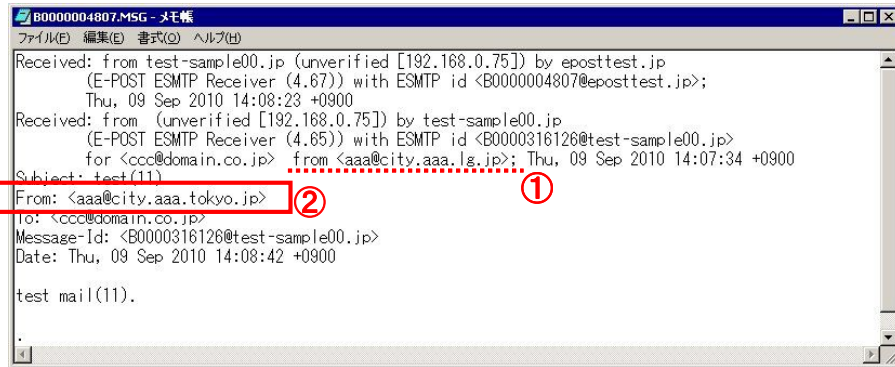
(E) LGドメイン city.aaa.lg.jp 内部アカウントどうして送ったメールヘッダ
 (メールサーバ内には作成された市町村ドメイン city.aaa.tokyo.jp とともに、エイリアスとしてLGドメイン city.aaa.lg.jp が仮想的に管理されている)



- ①メールクライアントから受領時の From:とエンベロップ FROM は<aaa@city.aaa.lg.jp>、
 To:およびエンベロップ TO は<bbb@city.aaa.lg.jp>
- ②送信時のエンベロップ FROMおよびメールヘッダの From:を <aaa@city.aaa.tokyo.jp>に書き換え、またエンベロップ TO およびメールヘッダの To:を<bbb@city.aaa.tokyo.jp>に書き換えてメールを送信

(F) LGドメイン city.aaa.lg.jp から、外部のインターネット domain.co.jp へ送ったメールヘッダ

(メールサーバ内には作成された市町村ドメイン city.aaa.tokyo.jp とともに、エイリアスとして LG ドメイン city.aaa.lg.jp が仮想的に管理されている)



- ①メールクライアントから受領時の FROM、エンベロープ FROM は<aaa@city.aaa.lg.jp>
 ②市町村サーバ (E-Post) 送信時のエンベロープ FROM およびメールヘッダの From:を
 <aaa@city.aaa.tokyo.jp>に書き換えてメールを送信

メールヘッダのうち「Received:」ヘッダは編集が可能

ここでは、書き換えられたエビデンスとしてメールヘッダの From:や To:が書き換わったことを事例として出しましたが、「Received:」ヘッダの for 句や from 句の部分は、特に書き換わりません。デフォルトの設定状態ではそれらの句もすべて表示するようにしています。

運用上支障があるときは、Received:ヘッダの編集を行い、表示したくない部分をカットしたりして編集してください。Mail Control の「サービス制御」タブの「Received:ヘッダの編集」ボタンをクリックで編集画面を呼び出すことができます。

作成ドメインは必ず共通メールボックス方式で

作成する内部ドメイン"city.aaa.tokyo.jp"は、メールボックスの方式について、必ず「共通ボックス (区別しない)」方式で設定してください。

「接続ドメイン/IP で区別する方式」で設定すると LGWAN option (x64)の機能は正しく働きません。

メールヘッダの書き換えが不要ならレジストリ値を変更

LGWAN option (x64)機能によって、メールヘッダ (From:ヘッダや To:ヘッダ) についても、デフォルトで書き換えがされるようになります。メールヘッダの書き換えが不要な場合は、以下レジストリ値を 0 に変更します。変更後はサービスの再起動が必要です。

HKEY_LOCAL_MACHINE

→ SOFTWARE

→ EMWAC

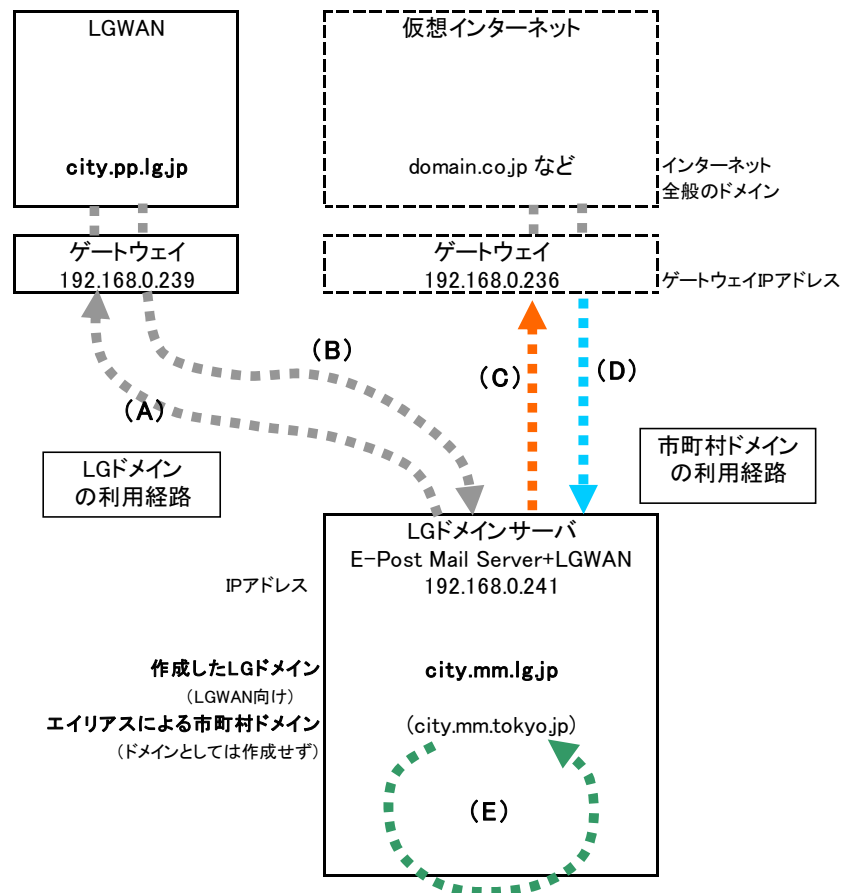
→ IMS

→ LGWANCHGHEADER (DWORD) (0:置換えをしない 1:置換えをする)
 (デフォルト値 1)

3. LG ドメインを作成・運用する E-Post Mail Server (x64)+LGWAN option (x64) 設定例

E-Post Mail Server (x64) (メールサーバ) +LGWAN option (x64) で構成するケースで、E-Post には市町村ドメインではなく、**LG ドメインを作成・運用**する設定例です。作成するドメイン "city.mm.lg.jp"は「**共通ボックス (区別しない)**」方式で設定してください。書き換え対象は、2 の設定例とは逆で、インターネットへのアウトバウンドメールのエンベロープ FROM、インターネットからのインバウンドメールのエンベロープ TO です。

LGWAN検証環境



LGドメインサーバ E-Post Mail Server+LGWAN Option の設定

エイリアス

→ 実アドレス

*@city.mm.tokyo.jp	*@city.mm.lg.jp,0,192.168.0.236
*@city.mm.lg.jp	*@city.mm.tokyo.jp,2,192.168.0.236

テーブル編集 (gateway.dat)

*.lg.jp,192.168.0.239,25
*.192.168.0.236,25

4. E-Post Mail Server (x64) + LGWAN option (x64)構成と E-Post SMTP Server (x64) + LGWAN option (x64)構成との比較

LGWAN option (x64)を利用するには、E-Post Mail Server (x64) (メールサーバ) + LGWAN option (x64) で構成するパターンと、E-Post SMTP Server (x64) (SMTP ゲートウェイ) + LGWAN option (x64) で構成するパターンの2つがあります。それぞれの構成パターンについて、メリットとデメリットおよび構成上の注意点について説明します。

■E-Post Mail Server (x64) (メールサーバ) + LGWAN option (x64) で構成するパターン (※P.8 および P.12 の設定例を参照)

(メリット)

メールサーバ1台で構成できる。

作成するドメインは1つで済む。書き換える対象のドメインをわざわざ作らなくてもよい。

(デメリット)

インターネット側と LGWAN 側とに混在する形で同報送信したとき、両方ともエンベロープ FROM を書き換えてしまう。そのため、混在する形での同報送信は避けて運用すべきである。(後述のコラム「LGWAN option (x64)を使って同報送信するときの注意」を参照)

(構成上の注意)

作成ドメインは「共通ボックス」方式にする。

作成ドメイン名と拡張エイリアス設定の組み合わせを間違えないようにする。間違えて設定してしまうと、もう一つの未定義アカウントに強制着信してしまい、user unknown を返さない結果になってしまう。

その他、構成時の注意事項は、P.8 および P.12 の設定例を参照のこと。

■E-Post SMTP Server (x64) (SMTP ゲートウェイ) + LGWAN option (x64) で構成するパターン (※P.15～P.17 の設定例を参照)

(メリット)

インターネット側と LGWAN 側とに混在する形で同報送信したときでも、手前のメールサーバがバラバラに分けて送信するため、一通ずつエンベロープ FROM の書き換え／非書き換えが正しく行われる。(後述のコラム「LGWAN option (x64)を使って同報送信するときの注意」を参照)

(デメリット)

SMTP ゲートウェイの役目をする SMTP Server (x64)と Mail Server (x64)を合わせると2台構成となり、内側のメールサーバがもう1台必要となる。

内側のメールサーバにない、本来なら書き換えることで不要なもう一つのドメインも SMTP Server (x64)内に作成しそのドメイン配下にユーザーアカウントを作っておく必要がある。その

ためライセンス増加につながる可能性があり、注意が必要。

(構成上の注意)

作成ドメインは「共通ボックス」方式にする。もう一つのドメインも「共通ボックス」方式。

作成ドメイン名と拡張エイリアス設定の組み合わせを間違えないようにする。

その他、構成時の注意事項は、P.15～P.17 の設定例を参照のこと。

LGWAN option (x64)を使って同報送信するときの注意

E-Post Mail Server (x64)+LGWAN option (x64)の構成で、メールクライアントから直接接続して、LGWAN 側とインターネット側を混在する形で同報送信した場合、LGWAN option (x64)の現機能では、両方の経路ともエンベロープ FROM の書き換えを行ってしまいます。

これを避けるには、E-Post SMTP Server (x64)+LGWAN option (x64)の構成にして、クライアントとの間に E-Post Mail Server (x64)によるメールサーバを置きます。次ページ以降の構成例を参照してください。

LGWAN option (x64)有効時に同報送信するとき
送信経路に従ってエンベロープ FROM の書き換えを制御する構成について

次の 15 ページの図は、E-Post SMTP Server (x64) + E-Post LGWAN option (x64)組み合わせ構成例です。緑色の部分が E-Post SMTP Server (x64) に関連する設定箇所、黄色の部分が LGWAN option (x64)に関連する設定箇所となります。

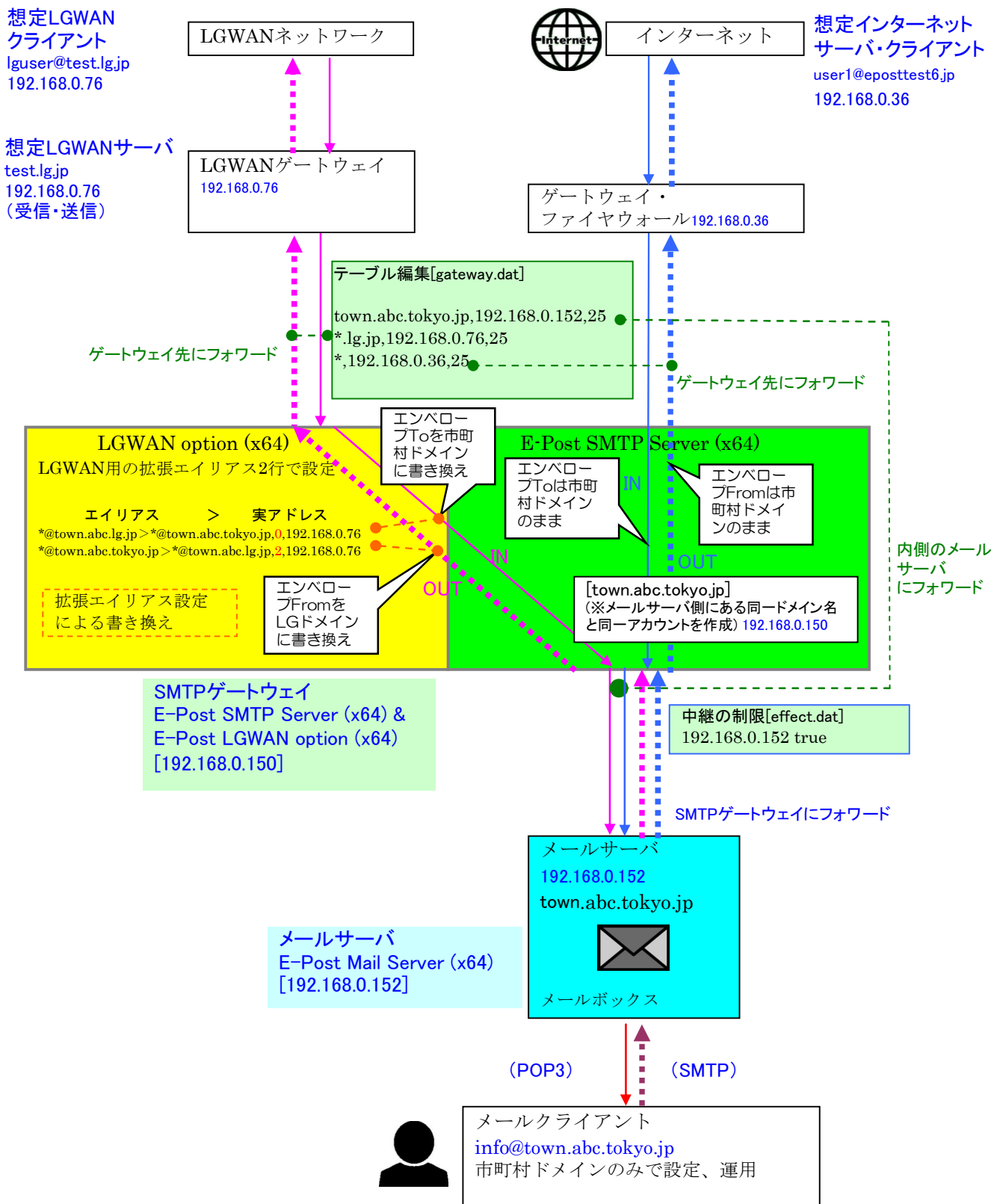
この構成例では、メールクライアントとの間に、E-Post Mail Server (x64)によるメールサーバを置いています。アウトバウンド時、この E-Post Mail Server (x64)によるメールサーバから、E-Post SMTP Server (x64)+LGWAN option (x64)を導入したサーバにフォワードする構成です。その結果、LGWAN 側とインターネット側へ混在させる形で同報送信を行った場合でも、手前の E-Post Mail Server (x64)によるメールサーバが 1 通ずつばらばらにしてフォワードしますので、E-Post SMTP Server (x64)+LGWAN option (x64)を導入したサーバは、1 通ずつエンベロープ FROM を書き換えたり、書き換えなかったりする処理を送信経路に従って正常に処理できます。

ただし、E-Post SMTP Server (x64)+LGWAN option (x64)の構成を取る場合は、内側のメールサーバにある同名のドメイン、および同名のユーザーアカウント同数分だけ E-Post SMTP Server (x64)内に作成しておく必要があります。(詳細は 16 ページ参照)

これに対して、E-Post Mail Server (x64)+LGWAN option (x64)の構成では、LGWAN 側とインターネット側を混在させる形で同報送信したときは、SMTP 受領段階では 2 つに分けられないため、結果的にインターネット側へ送るメールに対しても、一緒にエンベロープ FROM を書き換える動作となります。

5. E-Post SMTP Server (x64) + LGWAN option (x64) 構成の設定例

E-Post SMTP Server (x64) (SMTP ゲートウェイ) + LGWAN option (x64) で構成する場合の設定例です。ここでは市町村ドメイン名の方を作成して運用します。E-Post SMTP Server (x64)には、内側のメールサーバと同一ドメイン名を作成します。設定上のポイントは 16 ページ参照。



SMTP Server (x64)+LGWAN option (x64)構成での設定上のポイント

E-Post SMTP Server (x64)+LGWAN option (x64)構成する場合の設定上のポイントは、大きく分けて以下の2点です。

1. LGWAN option (x64) を組み込むことになる E-Post SMTP Server (x64)の設定では、通常の SMTP ゲートウェイの設定でよく使う手法である、内側のメールサーバにあるメールドメインに対してワイルドカードでエイリアスを設定する方法や、内側のメールサーバにあるメールアドレスに対して一対一でエイリアスを設定する方法のいずれも取らないことに注意してください。

内側のメールサーバにある同名のメールドメインを共通ボックス方式で作成し、および同名のユーザーアカウント同数分だけ E-Post SMTP Server (x64)内に作成する必要があります。またその際、「サーバー設定」タブにある「全受信メールを SMTP ゲートウェイに転送」チェックボックスをオンにすることを忘れないようにします。

これは LGWAN option (x64) の書き換え機能は、登録済み内部ドメイン（自ドメイン）に対して実行されるからです。通常の SMTP ゲートウェイとは異なり設定方法が限定されますので注意してください。

ちなみに 15 ページの構成例では、SMTP Server (x64)内に内側のメールサーバにある同じメールドメイン town.abc.tokyo.jp を共通ボックス方式で作成し、同名のユーザーアカウント info を登録してあります。

2. LGWAN option (x64) を組み込んだ E-Post SMTP Server (x64)の「エイリアス」設定では、インバウンド書き換え対象経路のエンベロープ TO とヘッダ To の書き換えを” ,0” で指定し、及びアウトバウンド書き換え対象経路のエンベロープ FROM とヘッダ From の書き換えを” ,2” で指定して設定します。

エイリアス	>	実アドレス
*@town.abc.lg.jp	>	*@town.abc.tokyo.jp,0,192.168.0.76
*@town.abc.tokyo.jp	>	*@town.abc.lg.jp,2,192.168.0.76

このとき、書き換え対象経路である LGWAN 側の IP アドレスを指定しますが、この IP アドレスが同時に「テーブル編集」【gateway.dat】内に必ず記述されていることが重要になります。これは、LGWAN option (x64) の機能が書き換え対象の経路であるかどうかを逆引きして参照するためです。通常の SMTP ゲートウェイの設定とは異なり【gateway.dat】が配送目的だけで使われるだけでなく他目的でも利用されることに注意してください。

テーブル編集[gateway.dat]	
town.abc.tokyo.jp,	192.168.0.152,25
*.lg.jp,	192.168.0.76,25
*,	192.168.0.36,25

ちなみに 15 ページの構成例では、「エイリアス」設定でインバウンド書き換え対象経路を” ,0” で指定し、アウトバウンド書き換え対象経路を” ,2” で指定しています。また書き換え対象経路である LGWAN 側の IP アドレスを含め、内側にあるメールサーバへの配送情報を「テーブル編集」【gateway.dat】内にしっかり記述してあります。

6. E-Post SMTP Server (x64) + LGWAN option (x64) 構成での送信テスト結果

E-Post SMTP Server (x64) (SMTP ゲートウェイ) + LGWAN option (x64) で構成した場合、実際にどのようにエンベロープ情報とヘッダ情報が書き換えられるのか、あるいは書き換えずそのままなのか、インバウンド時（前者）、アウトバウンド時（後者）それぞれ送信テストした結果のメールヘッダ情報を下記に示します。ここでは内側のメールサーバは市町村ドメインで運用されていますが、アウトバウンド時では市町村ドメインから LGWAN 側の LG ドメインとインターネット側の一般ドメインとに混在して同報送信テストした結果を示しています。

LGWAN側から town.abc.lg.jp に向けて送信した送信時のメールヘッダ

```
Date: Fri, 04 Mar 2022 13:38:05 +0900
From: lguser@test.lg.jp
To: lguser@test.lg.jp,
    info@town.abc.lg.jp
Subject: LGWANからの送信テスト[1]
```



SMTP Server + LGWAN option により書き換えられてメールサーバ town.abc.tokyo.jp に届いたメールヘッダ

```
Date: Fri, 04 Mar 2022 13:38:05 +0900
From: lguser@test.lg.jp
To: lguser@test.lg.jp,
    info@town.abc.tokyo.jp
Subject: LGWANからの送信テスト[1]
```

エンベロープ
ToとヘッダTo
を市町村ド
メインに書き換
え

インターネット側から town.abc.tokyo.jp に向けて送信した送信時のメールヘッダ

```
Date: Fri, 04 Mar 2022 13:42:07 +0900
From: user1@eposttest6.jp
To: info@town.abc.tokyo.jp,
    <user1@eposttest6.jp>
Subject: インターネットからのメール送信テスト[2]
```



SMTP Server + LGWAN option に書き換えられずメールサーバ town.abc.tokyo.jp に届いたメールヘッダ

```
Date: Fri, 04 Mar 2022 13:42:07 +0900
From: user1@eposttest6.jp
To: info@town.abc.tokyo.jp,
    <user1@eposttest6.jp>
Subject: インターネットからのメール送信テスト[2]
```

エンベロープ
ToとヘッダTo
は市町村ド
メインのまま

SMTP Server + LGWAN option により書き換えられてLGWAN側に到着したメールヘッダ

```
Date: Fri, 04 Mar 2022 13:51:16 +0900
From: info@town.abc.lg.jp
To: lguser@test.lg.jp,
    user1@eposttest6.jp
Subject: LGWANへとインターネットへの混合送信テスト[5]
```

エンベロープ
Fromとヘッダ
FromをLGドメ
インに書き換え



メールサーバ town.abc.tokyo.jp からLGWAN側とインターネット側とに混在送信した送信時のメールヘッダ

SMTP Server + LGWAN option により書き換えられずインターネット側に到着したメールヘッダ

```
Date: Fri, 04 Mar 2022 13:51:16 +0900
From: info@town.abc.tokyo.jp
To: lguser@test.lg.jp,
    user1@eposttest6.jp
Subject: LGWANへとインターネットへの混合送信テスト[5]
```



エンベロープ
Fromとヘッダ
Fromは市町村ド
メインのまま

```
Date: Fri, 04 Mar 2022 13:51:16 +0900
From: info@town.abc.tokyo.jp
To: lguser@test.lg.jp,
    user1@eposttest6.jp
Subject: LGWANへとインターネットへの混合送信テスト[5]
```